

ちよとそいばで

わがまち散歩

道すがら、心通わす人がいる
古里の温もりに包まれながら
あちらこちら、わがまち散歩

寺中・
田原編

町の東部に位置する、寺中・田原地区。由緒ある神宮があることなどから、この地域が昔から栄えてきたことが分かります。慌ただししい師走を迎える12月。少し冷たい外気に触れても、太陽の日差しを浴びればぬくぬく。鼻歌まじりで散歩のスタートです。

手作りの布草履を作る 101歳のお宝ばあちゃん

山肌をドラマチックに彩った紅葉から、冬枯れへと移る古里の景色もまた、風情ある色模様を描きまします。散歩のスタートで出会ったのは寺中地区に暮らす寺本チヨ子さんです。なんと御年101歳で、大正9年の生まれです。

チヨ子さんの青春時代は、太平洋戦争の真っただ中。子育てに忙しか

った25歳の時に終戦を迎えました。激動の時代を生きたチヨ子さんは、仕事で家を不在にしなが

ら男女6人の子どもを育て上げました。多くの苦労があったことでしょうが、そのほがらかな笑顔からはチヨ子さんの人となり、凛とした生き方が伝わります。

そんなチヨ子さんの楽しみは布草履作り。一年365日、草履を編むそうです。まず、着物をほどこ

笑顔の絶えない101歳の寺本チヨ子さん

細かく裂き、ひもを一本ずつ縫って作り草履を編んでいきます。手つきも力強く、チヨ子さんが作る草履は履き崩れしにくいと評判です。

「お袋は毎日、手と足を動かしています。それがボケ防止になるんだと思います」と話すのは長男の孝昭さん(79)です。「記憶力もよかし、頭じゃ勝たん」と笑う次男の英孝さん(74)も見守ります。

「皆さんが幸せになりますようにと願いながら、編みよります」と手を休めずに話すチヨ子さんは、肥後狂句や短歌も詠むそうです。最後に一首、こう詠んでくれました。

「この草履

どなたが履いてくれるやら
今日も編みます 心を込めて」



上／布草履を編む手つきも力強く
左／色合も工夫されたチヨ子さんの布草履



孝行息子たちと一緒に笑顔の花が咲いて

